

編集後記

このたび『仏教経済研究』第四十九号を無事に発行することができました。本号の原稿締め切り前後の新型コロナウイルス禍は、本学も含め多くの混乱をもたらし、教育界を含む社会全体に大きな影響を与えた時期でもありました。そうした混乱に巻き込まれた方も多かったと推察されますが、そうしたご多忙中での寄稿とご協力に対し、深く感謝申し上げます。

二〇一九年度は本研究所の日常活動に関して大きな変化はなく、これまでと同様に、深沢校舎の研究所内で研究報告会を毎週開催し、同時に、二〇一六年度より開始いたしました「地域社会における寺院の役割」というテーマに基づき調査活動も継続いたしております。調査に関しては、二〇一九年度は前年度の三月を含めて八月の調査も含めて計二回にわたって日本国内を出て、台湾において寺院調査を行っております。本号では三月に行いました調査を中心とした報告を掲載しております。今後もこうした調査を継続し、報告を継続掲載してまいりたいと存じます。

そうした調査・研究活動の活発化を図るために、所員・研究員の皆様におかれましては、附置研究所としてふさわ

しい調査・研究テーマがございましたら、積極的なご提案をお願いいたします。

数年前から、大学という高等教育機関の「附置研究所」の活動にふさわしい活動、および紀要に掲載される内容にふさわしい水準を確保し、より高めることを目標として研究所内部でも話し合いを続けております。そうした話し合いの成果を踏まえて、年度明けには今後の活動に向けた改革の内容や方向性を確定したいと考えております。

そうした方策については、一朝一夕に結論や結果が出るものとは考えておりませんが、来年度は紀要の号数も五十号を数えることとなります。半世紀という一つの区切りを迎え、附置研究所としての歴史と役割にふさわしい活動内容をとすべく、所員・研究員一丸となって励んでまいりたいと考えております。本号にご投稿いただいた先生方も含め、諸活動への積極的なご参加とともに多くのご意見・ご提案をお願いいたします。

今後大学の「附置研究所」は、その活動を通してその存在意義を問われ続けると予想されます。半世紀を数える歴史に恥じないように、今後とも活動内容の一層の充実を目指し、同時に皆様のご協力と積極的なご参加をお願い致します。